


(オ) 民族楽器

No	楽器イラスト	楽器の知識や奏法	どんな音色？
44	<p>カリンバ (kalimba または calimba), 親指ピアノ, サムピアノ (thumb piano) ムビラ (mubira)</p> 	<p>箱や板の上に音程の異なる細い金属板を並べ、一方を固定する。固定されていない側を親指で弾いて音を鳴らす。いろいろな呼び名があり、「ハンド・オルゴール」と呼ぶこともある。タンザニアでは「カリンバ」、ジンバブエ等では「ムビラ」と呼ばれている。元々はジンバブエのショナ族が伝統的に弾いていた楽器のひとつで、儀式で演奏するためのスピリチュアルな楽器。</p>	
45	<p>チャフチャス (chajchas / 西)</p> 	<p>アンデス音楽のリズム楽器として使われる。乾燥させた木の実やヤギやリヤマ、アルパカ等の蹄を紐で束ね、手や足に巻き付けて使う。振ると木の実同士、蹄同士がぶつかり合い、乾いた音色がする。「水」を連想させる音にも聴こえる。</p>	
46	<p>カシシ (caxixi / 葡)</p> 	<p>籐で本体を編み、中に乾燥させた種子等を入れ、椰子や瓢箪で底を塞ぐ。シェーカーのように縦横に振って音を鳴らす。底の素材により音色が変わる。アフリカやブラジルのカポエイラという格闘技の時に使われるピリンバウという楽器と一緒に使われる。</p>	
47	<p>ジャンベ (djembe, jembe 等 / 英)</p> 	<p>幼稚園等で用いられるのは左側のようにプラスチックの楕円形のグリップにいくつかの鈴が付いているもの。取っ手の部分を握り、もう片方の手で手首をトントンと打って細かな音を鳴らしたり、左右に振って音を鳴らしたりする。右側のように棒にたくさんの鈴が付いているものは「スレイ・ベル」という。これが用いられている有名曲にはアンダーソンの「そりすべり」がある。</p>	
48	<p>タムタム (銅鑼) / ゴング</p> 	<p>銅や錫等の金属製の大型の円盤型打楽器。表面の中央に凸部があるものは東南アジア由来の「ゴング」、表面が平坦なものは中国型の「タムタム (銅鑼)」というが、タムタムをゴングと呼ぶことも多く、境界線は曖昧。</p>	
49	<p>アサラト (asalato)</p> 	<p>元々はセネガルやマリ共和国等の西アフリカの民族楽器で、母親が子どもに作って与えるおもちゃである。ケスケス、テレヴィ、バラニ等とも呼ばれる。丸い木の実に種子等が入っていて、2つの木の実を紐で繋ぎ、人差し指と中指で挟んで前後に振ると「シャカシャカ」、玉同士がぶつかり合うと「カチカチ」という音が鳴る。</p>	
50	<p>トルン (t' rung / 越)</p> 	<p>ベトナムの竹琴。骨組みも音板も全て竹製で、かなり大きめの楽器。竹の管が縦型に並んでいる。</p>	

(オ) 民族楽器

No	楽器イラスト	楽器の知識や奏法	どんな音色？
51	<p data-bbox="108 219 220 275">シンギング ボール</p> 	<p data-bbox="655 219 1268 304">チベットの民族楽器で、仏具のリンに似ているが、シンギングボールは叩くだけでなく、擦って音を鳴らすこともある。また、複数個を並べて用いることも多い。</p>	

No. 44～47, 49～51 所蔵：齊藤淳子

撮影 ©2023, J. SAITO

No. 48 所蔵：北海道遠軽高等学校

撮影 ©2023, 高橋利明